投資信託業界歴30年の父親が
娘とその夫に伝える

# 資産形成の本音の話

今福啓之

## 新NISAで焦る前に読むべき本

ネット証券の専門家が太鼓判を押す

## 投資信託と資産形成の本質的リテラシー

資産運用業界で働く父から娘たち夫婦へのお金の増やし方のアドバイス。
**実用的で分かりやすい本です。**

マネックス証券
岡元兵八郎

あぁ、**投資教育ってこういうことか…！**
長年探していた答えがようやく見つかりました。

楽天証券
篠田尚子

投資信託業界歴30年の父親が
娘とその夫に伝える

# 資産形成の本音の話

今福啓之

星海社

290

SEIKAISHA
SHINSHO

・本書の情報は２０２４年３月時点の情報であり、今後変更される可能性があります。
・本書の情報は著者個人の見解であり、著者が所属する企業の見解ではありません。
・本書の情報はあくまでも情報提供を目的としたものであり、特定の商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。
・本書の情報の利用によって何らかの損害を被ったとしても、著者および出版社は理由のいかんを問わず、責任を負いません。投資にかかる最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

# はじめに

この本は投資信託の運用会社に勤める57歳の私が、29歳と26歳の2人の娘とそれぞれの夫に伝えたいと思う資産運用の考え方と知識について、まとめたものです。

同世代やより若い方にはベストフィットと思いますが、資産運用の考え方や知識の多くに年齢は関係ありませんから、40代や60代の方にも役立つものになっていると自負しています。

私が27歳の時に長女、30歳の時に次女が生まれました。幼い時は「天使か？」と思いました（半分勘違いでした）が、成長していく過程においても、その時々でその年齢ならではの幸せな時間を彼女たちから受け取り、仲良く一緒に歳を重ねました。

同僚からはずっと、「そんなに可愛がっている娘さんが結婚するなんてなったら大変でし

ょう。相手の男に『殴らせろ』とか言うんじゃない？」とからかわれていましたが、残念ながらそんな面白いシーンはないまま、彼女たちは巣立っていきました。

実際のところ、私が願うのは「夫と一緒にとにかく幸せな人生を」だけです。幸い長女の夫も次女の夫もとても優しく（しかも料理上手で）、しっかりした素晴らしい男性（に今のところ見えています）です。

でもまだ娘と夫たちは、目の前の仕事とそこから得られる収入をどう将来設計に結び付けていくかという大きな考えや、具体的な方法論までは持てていないように見えます。

多くの方も同じではないでしょうか。

ＮＩＳＡのおかげもあって、資産運用や投資信託の認知度は格段に上がりましたが、もしかすると、勇気を出してＮＩＳＡを始めたら魔法のようなことが起きるといったイメージだけの方もいるのではないでしょうか。

「ＮＩＳＡのお得な使い方！」や「お薦めはこのファンド！」という動画は世にあふれ、販売会社はポイント還元やキャッシュバックなどで盛り上げますが、「何がなんだかわからないから、やっぱりいいや」となったり、「人気ファンドを買っておけば間違いないよね？」

などと、いまひとつ自信がないという方も多いのではないでしょうか。

焦って簡単に始めないことが大事です。

ＮＩＳＡは無期限の制度なのですから、いつ始めてもいつまで持っててもいいのです。そもそも、ＮＩＳＡは最後の最後に売った時に、利益分にかかる約2割の税金が免除されるという「だけ」の話です。それ以上でもそれ以下でもありません。

それに、投資信託はほぼ間違いなく一度は元本割れする金融商品です。

あとから見た大底で買った「奇跡の人」以外は皆、明日か1年後かはわかりませんが、一度は買値を下回る「含み損」を経験します。

そんな損するものをなぜ買うのか――。そこに自分なりの確固たる考えと納得が必須です。キャンペーンやYouTuberはそこまでは教えてくれません。

始める時には是非、この本を読み通すくらいの我慢と努力をしてもらうといいと思います。

語り口は本当に娘に語るように柔らかくしましたが、後半は結構骨のある内容になっています。しかし、断片的で表層的な情報ではなく、包括的で体系的な知識を一度入れてみた上で、（この本に対しても）それが正しいかどうかについての批判的な考えまでを持てるようになることをめざしてもらいたいと考えました。

私には昨年80歳を迎えた母がいて、父が亡くなったあと1人で暮らしているのですが、信じられないほどに若々しく、「やりたいことがありすぎて時間が足りない」と言って飛び回っています。

父が膨大な資産を築いていたとは聞いていませんが（少なくとも私はもらっていません）、母が第二か第三かの人生を謳歌するだけのものを遺したのでしょう。そして、決してお金持ちの家の子ではなかった私ですから、母も早くからしっかりとお金の将来設計をしていたのでしょう。

私の話には、きっと暑苦しくて説教じみたところがあるはずです。

でも娘と夫と皆さんに、私の母のように幸せな人生１００年を楽しみ尽くしてもらうた

めに、自分自身で納得ずくでお金と人生の全体設計をしてもらいたいという思いで伝えていきます。

どうぞお付き合いのほど。

今福啓之

目次

はじめに 3

## 1 最初に結論、言っておく 22

「以上、終わり！」な本質は？ 22
ぜひ手取りの25％、共働きなら35％を 26

## 2 夫婦2人で「本気の積立」をオープンに 30

「本気の積立」を夫婦同額でオープンに 30
「今」のためのお金の分担と「将来」のための平等な取り組み 32
2人の将来のためなら口座名義は？ 33
ＮＩＳＡ？――別に大した話じゃありません 35

## 3　預金でもいいけど、僕の20年は参考になるはず（前編）　37

投資はマストじゃないけど、誰しも欲はあるからね　37
実は運用って、しょせんは「運」の話　38
父の20年。見せとこ！　40
父の20年。最悪のスタートでした　41

## 4　預金でもいいけど、僕の20年は参考になるはず（後編）　43

父の20年。実は結構シビアでした　43
「意志ある楽観主義」、というか仕事に集中しとこう！　44
父の20年。でもやめなくて良かった　46
不思議すぎるこの結果はなぜに？　47
スゴくない？　いやホントに　48

## 5 預金でもいいけど、僕の20年は参考になるはず（完結編） 50

すべては結果論だけど 50

経済は右肩上がり 52

## 6 告白：僕の積立20年で実は後悔していること 56

日本株ファンドでなければ…… 56

リターンを決めたのは「インデックスかアクティブか」などではない 57

## 7 アセットアロケーション？——うーん。知らなくていいかな 62

君たちなら「株１００％」がデフォルトで結構 62
元本割れするからね！ 64
株は確かに怖いけど、とにかく他のものと混ぜればＯＫって話でもない 67

## 8 「途中のリスク」と「最後のリスク」 69

「直線をあきらめて、曲線を受け入れる」のが資産運用 69
君たちにとっての「真のリスク」は何だろう？ 71
「途中のリスク」と「最後のリスク」 73
ところで君たち、会社の確定拠出年金はどうしてる？ 75
僕の確定拠出年金を公開しよう 76

## 9 基準価額って何？ 79

基準価額の計算式は理解しとこう 79

もし中身に海外株式が入ってたら？ 81
今日明日の違いなど、どうでもいいくらいなリターンを考えよう 84

## 10 信託報酬というコストの意味 87

「コスト」のことを話しとこう 87
コスパは「パ」があってこそ 89
コストの低下は主に「インデックスファンド界」で進んできた 91
コストによる「乗り換え」？ 93

## 11 基準価額は単なるモノサシですから 96

基準価額の見方を教えておこう 96
基準価額の変化は「額」でなく「率」で見ないとダメ 99
「率」のチェックもほどほどに 101

## 12 「口数」だから難しいんだよね 103

投信は「口数」で買う 103
変わらない口数と、日々変わる基準価額 104
積立における口数 107

## 13 ずっと使える株式の知識（前編） 110

物事はシンプルに 110
何千本あっても「3×3」のマスで整理可能 111
国に投資しているのではない。「企業に」だ 114

## 14 ずっと使える株式の知識（中編） 118

そもそも、どういう理屈で動くわけ？ 118
もうひとつの株価 121
株価は「利益×ムード（PER）」 123

## 15 ずっと使える株式の知識（後編） 127

「連想ゲーム」に付き合う必要はないけど…… 127
「残念ながらマーケットはひとつ」――僕らはどうすべきか？ 130

## 16 企業を応援？　いやいや、そうではなく…… 135

大事なのは「角度」です 135
「応援したい会社か」どうかは実は重要でない 139

## 17 悪いけど投資に「複利効果」なんてないから 143


自分で理解できることだけでOK 143
まずはずっと使えるリターンの計算式を教えよう 145
ついでに「年率」のお作法の話をしておく 148
計算の前提のない数値が並ぶようなサイトは要注意 153
分配金を再投資するかどうかは、投資における複利効果とは別次元の話 154
株式の配当金や債券の利子は投資信託の中で再投資されている 157


## 18 長期投資は「複利効果」のためでなく…… 159


短期で達成されるならそれが一番では？ 159
長期投資は何のため？ 162
人はいつもタイミングをミスるから 164
長期投資はリスクを減らさない？ 167

「多少の間違い」でなく「大きな間違い」からだと、長期投資でもムリ 169

## 19 将来いくらあれば正解なんだろう？ 172

やっぱりお金は大事 172
とはいえ、普通の勤め人がお金をつくるには？ 174
その前に必要なのは「いくらあったら？」を知ること 175

## 20 年金は大丈夫？　はい、大丈夫 181

年金は元々「社会全体の保険制度」でしかない 181
常識として知っておきたい公的年金の構造 183
公的年金が潰れる心配は？ 186
「年金悲観」で始めるのはまったくイケてない 189

## 21 じゃあ、どう増やしたらいいわけ？ 192

お金を増やす方程式 192
問題は「利回り」部分 196
とはいえ「固定利回り」なんてないんだけどね 197

## 22 納得ずく？　怖いんですけど 200

必要な「利回り」＝納得ずくのリスクテイク 200
「合わせ技」もある 202
考える順番 205

## 23 「もし5％で運用できたら」――そんな無責任な!? 208

そもそも「利回り」という言葉は馴染まない 208

「曲線」を無理やり「直線」に直しただけのこと 211
10年で5割、20年で2倍って無謀？ 213

## 24 皆が株式インデックスファンドでなくていい 217

「ロボアド」っていいの？ 217
年3％ならバランスファンドがよさそうだ 220
バランスファンドの良さは基準価額がひとつなこと 222

## 25 株式ファンドの選び方（インデックスファンド・前編） 226

インデックスファンドは「儲からない」（指数以上には） 226
インデックスファンドの運用は簡単じゃない 229
インデックスファンド間のコスト差をどう見ればいいか 233

## 26 株式ファンドの選び方（インデックスファンド・後編） 237

インデックスファンドはあなたの資産の増加をめざしてはいない 237

S&P500一択論 239

オールなカントリー？ 243

## 27 アクティブファンドを擁護しようと思う 249

インデックスファンド以外は認めない？ 249

アクティブファンドは2つに分かれる 252

コンセプトファンド 255

陳腐な「テーマ株ファンド」じゃないの？ 259

## 28 NISAをどう考えるか 262

ＮＩＳＡは単なる口座の名前でしかない 262
ＮＩＳＡで買える商品は制限付き 264
ＮＩＳＡで買える金額の上限が決まっている 269

## 29 じゃあどうする？　投資信託選びの具体策 275

インデックスファンドの盲点 275
オール・カントリーへの「万能感」も気になる 283
Ｓ＆Ｐ５００かオール・カントリーをベースに「チューニング」 285
ケーススタディ　インデックスファンドをベースとした「チューニング」 288

## 30 どんな投資信託が〝積立最強ファンド〟なのか？ 294

「ドルコスト」は魔法の杖じゃない 294
優秀なファンドって？ 298

積立にとって「いい軌跡」 300
積立にとって「ダメな軌跡」 306

## 31 父から（ようやく）最後のお話 309

「必ず元本割れするもの」をなぜやるのか 309
相場観でなく「投資観」を 312
「しょせんは運」というクールさを 314
右肩上がりの市場に居続けろ――Stay Invested 317
図太く――Think Big 322
人の行く裏に道あり――Think different 324
資産運用には2人で取り組み、2人で忘れて人生を楽しむべし 326

おわりに 331

# 1　最初に結論、言っておく

では少し照れるが早速始めますか。投資信託（投信）の仕事で約30年の僕が、父親の最後のアドバイスとして結婚した娘とその夫2人にこんな話ができるのは、まぁありがたいことだよね。

**「以上、終わり！」な本質は？**

最初に結論を言っておく。それは運用を始めるだけで何かすごいことが起こるという期待は違うよ、ということ。

最近ＮＩＳＡ（少額投資非課税制度）だ資産運用だと盛り上がっていて、30年この業界にいる僕からするとありがたくはあるんだけど、大事なことはただひとつで、単に**「毎月どれだけ大きな金額を天引きできるか」**に尽きるんだよね。

つまり、別に運用じゃなく天引きの積立定期預金でいいわけ。

「天引き」とは、給料が振り込まれたらすぐ自動的に引き落として別のところに移動すること。今は「積み立て」と言った方がわかるかな。

もし君たち2人の家計で毎月10万円の天引きを20年続けられたなら、まぁお金のことで不幸になることはないと思う。

だって1人5万円、2人で10万円の天引きってことは、12ヵ月で年120万円だよね。

2人ともボーナスはあるから年15万円ずつ出し合って2人でプラス年30万円を加えたとしたら1年で150万円の貯蓄ってことだよね。それを20年ずっと続けたら？

150万円×20年＝3000万円でしょ。

今から20年後ってことはまだ40代半ば。**40代半ばの君たちが3000万円持ってたらどうよ？**

もし、1人10万円ずつの2人で20万円できるとしたら、年240万円だよね。

そこにボーナスで30万円ずつ2人でプラス60万円オンできたら年300万円だよね。

その20年ってことは**6000万円ですよ。40代半ばで6000万円**。スッゴイよね。

**「以上、終わり！」**なの。本質的には。

何だか「投資しなきゃ」って焦ったり、すごい勉強が必要だと思ったり、投資すれば何かすごいことが起こるような気がしているかもしれないけど、違うんだよね。

特に最近は、テレビのワイドショーなんかでもＮＩＳＡの話をするようになったよね。

僕は１９９０年に証券会社で社会人をスタートして、２０００年から運用業界に転じたのでもう30年以上この業界にいるわけだけど、こんなに投資が一般的に語られるようになったのは初めてじゃないかな。

ほんの少し前までは、投資信託であっても、それはお金を持ったシニアの人たちが余裕資金で買う金融商品という感じだった。あるいは、個別株の売買を好きな人が趣味としてやる特殊な世界という感じだった。投信積立なんてメジャーじゃなかった。それを思うと隔世の感があるな。

テレビでＮＩＳＡの話をやり、YouTube にもたくさんのキャッチーな動画があって、君たちのような若い人が前向きに投資を考えようとし始めてるんだから。

でも、まず言っておきたいのはこれ。

**投資はマストじゃないし、ＮＩＳＡを始めるだけで物事は解決しない。**

今、「１００円から投資できる！」とか「まずはポイントで投資の勉強！」とか「ワンタップで株式が買える！」みたいな話が盛んだけど、それらの情報は今言った本質がわかってないなら全部無意味だと思う。

投資するかしないかとか、何の投資信託をいつ買うかなどではなく、「**毎月どれだけの天引きをするか**」が一番大事。

違う言葉を使うなら、「自分たちはどれだけのお金を、今使うことを我慢して将来のために取っておけるか」――。

業界は「１００円からでも投資信託を！」と宣伝するし、国はＮＩＳＡだ iDeCo（個人型確定拠出年金）だと君たちの背中を押そうとしてくれるけど、毎月１００円ではいくらスゴイ運用をしたって君たちの人生の助けになる金額にはなり得ない。

でも毎月の天引きの金額が大きければ、別に投資をしなくたって君たちの将来は明るくなる。さっき言ったみたいにね。

投資はマストじゃない。**運用商品の選択や投資の勉強よりも、毎月の金額こそがカギを握る**――これが本質。

その理解がない投資の勉強では、ほぼ間違いなく趣味の「マネー遊び」になっちゃう。株式市場がいい時は楽しくて有頂天になって、毎日アカウントの残高を見たり、ツイートしてみたり、売り買いしてみたくなったりするんだけど、そんな幸福な時期って実はあんまりないから、基本的にはストレスばかりでいい趣味にはならない。

**ぜひ手取りの25％、共働きなら35％を**

僕が君たち2人の父親として、本気で君たちの人生を思って言いたいのは、「投資はまずは勉強から」などとズルズル時間が経っちゃうくらいなら、今すぐ銀行のアプリを開いて、**給料日の翌日にでも引き落とされる定期預金の天引きをギリＭＡＸでセットしなさい！**　なんだよね。

給料が振り込まれてすぐ、そこそこ大きい金額が自動的に違う場所に移され、残った普通預金の残高でやり繰りする仕組みをいち早く構築するってこと。

毎月1人いくらの天引きをするかは、もちろん僕が決めるべきことじゃない。でも本多静六（ほんだせいろく）っていう人の「月給4分の1天引き法」っていう昔の有名な考え方は、今でも参考になる気がするな。

税金や社会保険料が引かれた後の、毎月普通預金に振り込まれるお金の25％（4分の1）を最初から無いものとして生活をしていくってことだよね。手取りが月20万円なら5万円。ただ、僕ら夫婦と違って2人は共働きであることを考えると、もしかすると**25％じゃなく30％や35％でもいい気がする。**

さっきはざっくりと1人5万円と1人10万円の計算で話したけど、手取り20万円として具体的にこの比率を当てはめてみようか。

手取り20万円の30％なら1人月6万円＝2人で12万円だね。頑張って35％なら7万円＝2人で14万円ってことだ。

この「月給30％天引き法」にボーナスで1人当たり年15万円プラス、っていうのを2人で実践するなら、この絵のように20年後には3480万円ってことだ。

「35％天引き法」なら、2人で毎月14万円の12ヵ月とボーナス2人分30万円の20年で3960万円だ。

それぞれ手取り20万円/月の30％を貯めるとすると…

20万円×30％
＝6万円

＋

20万円×30％
＝6万円

＝毎月12万円貯まって、

ボーナスからも…

12万円 × 12ヵ月 ＋ 15万円 × 2人分 ＝ 毎年174万円貯まって、

20年間続けると、

174万円 × 20年間 ＝ 20年後には3,480万円貯まっている！

ちなみに毎月35％にすると、20年後には3,960万円に。

何も難しい計算でなくて、ただ計算機で掛け算しただけ。

つまり投資のシミュレーションではなく、利息をゼロと仮定した計算なんだけど、逆に確実に３４８０万円と３９６０万円になっている、ともいえるよね。

**20年後の40代半ばでそんなお金を持っている2人なら、色んな人生の選択肢を選び取れるんじゃないだろうか。**

家を買う原資にしてもいいし、使わずに20年以降もどんどん積み上げながら、お金から精神的に自由な生き方をする、なんてのも最高だ。

そういえば、僕の仕事である投資信託についてはどれくらい知ってるんだっけ。

「投信」とか「ファンド」とも呼ばれるけど、簡単に言えば、多くの人のお金を１つのプールに集めて、それぞれに定められた方針のもと投信会社の担当者（ファンドマネージャー）が株式市場などで運用する金融商品が投資信託ね。

実は「ファンド」って、「お金のかたまり」程度の意味の曖昧な言葉で、ＳＮＳなんかでは日本の法律で規制されていない心許ないものから明らかに詐欺的なものまで、色んな「ファンド」の広告を見るから気をつけてほしい。実際、時々そういう詐欺的な商品に騙され

た人のニュースも見るでしょ。ホントに危ないし、腹が立つ。

「ファンド」という広い概念の中で、信頼に足るものが「投資信託」だと思っていい。

たくさんの法律と監督官庁から（いい意味で）がんじがらめに縛られたガラス張りの金融商品だ。簡単な判別方法は、販売の資格を与えられている銀行や証券会社などの金融機関が販売を担っているかどうか。

僕は10年間、販売側の証券会社に勤めた後、２０００年から投資信託の会社に転職して以来、ずっとマーケティングの仕事をしている。君たちにはたくさん話したいことがあるんだ。長くなるかもしれないけど、付き合ってほしい。

# 2 夫婦2人で「本気の積立」をオープンに

**「本気の積立」を夫婦同額でオープンに**

さっき話したポイントは、預金か運用かとか、何を買ったらいいのか？　などの方法論よりも、天引き、積立の「元本」の大きさこそが大事なんだってことだったよね。

生活の無駄や見栄を削ぎ落とすことで手取りの25％以上、できれば30％や35％の積立をやったらいいよって、ちょっと踏み込んだ話をした。

ウチの会社はそれを「**本気の積立**」って言葉でもう10年以上ずっと標榜してるの。

今では投資信託の積立も１０００円とか１００円からやれるんだけど、そんなんじゃ意味ないよ！　ってあちこちで言い回ってて、「御社って自由ですねー」って同業から苦笑いされてる。

もうひとつ踏み込んで言いたいのは、それをぜひ2人でオープンに、平等にやったらど

うだろうという話。

２人の稼ぎはそれぞれ違うんだろうけど、日々の生活費の拠出の分担の方でメリハリつけるなりして、**「将来の２人のためのお金」については平等に、つまり同額で、かつオープンにして２人で楽しみながら作っていく、**っていう考え方。

ウチはご存じの通り僕だけが働く家庭だったから、アドバイスする資格はないかもしれない。でも日本にはまだダブルインカムの家計に対するアドバイスが確立してないんだよね。

それでも最近よく耳にするマズイ例とは、お互いで取り決めた生活費の拠出をしたあと、互いのお財布に関与してない例。

それぞれ「相手は貯金してるだろう」と思っていたがそうではなかった――っていうケースみたい。

２人合わせれば年収１０００万円とか１２００万円とかの「パワーカップル」っていうらしい、豊かな生活をしてる30代後半とか40歳くらいの人たちが、いざフタを開けてみたらほとんど貯蓄がなかったとか、片方しか頑張ってなくてそれが原因で不仲になっちゃうとかね。

## 「今」のためのお金の分担と「将来」のための平等な取り組み

それではダメだと思う。**最初が肝心**。「初期設定」が大事だと思う。

せっかく僕の話を2人で聞こうとしてくれたわけなので、「2人平等にオープンに」を「本気の積立」の次のキーコンセプトとして実践してほしい。

既に「毎月の2人の生活のため」の拠出を分担していると思うけど、それとは別に「将来の2人の生活のため」の拠出を新規設計するっていう話だね。

**2人でオープンに話し合い、無理のないギリの「本気の積立」を、できれば同額で設定したらいいと思う。**

「今」と「将来」の2つの切り口からオープンに共有し、それを紙のノートでもPCでもいいから記録していったらいいんじゃないだろうか。

そして年末に一度、ノートを2人で一緒にチェックして進捗確認をしたらいいと思う。

このあと話すけど、投信で積立をしていると必ずいい時期と悪い時期があるから、年末に2人でそれを見ながら、喜んだり青くなったりするのも「年末行事」として面白いじゃない。

もちろん青くなるのはないに越したことないけどさ。

**2人の将来のためなら口座名義は？**

もっと踏み込んで具体的なことを言うね。

この「作戦」を投信で始めるには投信を買うための「証券口座」というのを開設する必要があります。証券会社でも銀行でも同じ。

その時、「2人の将来のためなら共同名義みたいなのにするのかな？」と思ったかもしれないけど、そんなことはないの。

**別々に口座を作って別々にやってればOK。**

それぞれが、できれば同額で平等に積立をしていることを互いにオープンにしてさえいれば、それぞれ自分の名義でやっていればいい。そもそも自分のお給料だからね。

まだ証券口座を持っていないなら、**まずは口座だけを作ることからだね。**

同じ金融機関にした方が、アプリやウェブサイトの見方とかで相談しやすいからいいんじゃないかな。

**ただ、ポイント還元が多いとか少ないとか、口座開設で何かもらえるとか、そういうことで決めないこと**が大事。

提携のクレジットカードから投信積立の引き落としをするとポイントが付く、みたいな

話も最近盛んだけど、僕はちょっと違和感。

そのためにカードを増やしたり、銀行口座を変えたりするのが面倒だっていう僕の無精な性格のせいもあるけど、そういう「ポイ活」と自分の人生設計そのものである投信の積立が、何となくミスマッチな気がするっていうのもある。

企業は口座獲得のプロモーションで色んな手を打ってくるけど、それはあくまで「オマケ」だと考えるクールなスタンスをお勧めするかな。

君たちは10年20年の大プロジェクトをしようとしてるんだから、目先の**コスパ話に釣られるのでなく「20年は絶対潰れないだろう」というところで口座を作ること**が大事。

**投信って購入した金融機関が潰れても投信のお金自体には一銭も被害が及ばない仕組み**なので、本当はどこでも大丈夫なんだけどね。

とはいえ潰れたり、サービスをやめちゃって口座を移管しなきゃならなくなったり、何回も名前が変わられたりしたら面倒くさいからね。ホント。

ちなみに口座を作る時には、同時に何かのファンドを買わなくてもいいし、同時に現金を入れる必要もないから安心して。

とにかく口座だけはすぐに作るアクションをすると。それが大事。

この世界、とにかくアクションをすること。**そうしないと何も始まらないから。**

**NISA？――別に大した話じゃありません**

ところで、「NISA」というのは聞いたことあると思うけど、それは証券口座を開いたあとに出てくる話で、簡単に言えば証券口座の中が2つに分かれているの。

だから口座作る時には気にしないでいい。**「NISAも使うつもりです」とチェックボックスに印を入れて、マイナンバーの写しとかの必要な書類を添えておけばいい。**

実際に何かファンドを買う時になると、証券口座の中の「NISA」の口座の方で買うか、そうでない口座、「特定口座」っていうんだけど、その中で買うかを選ぶわけ。

そうそう、ちょっと気が早いけど**「特定口座・源泉徴収あり」が良し**――と覚えておいて。

ネットでは申告不要な年間20万円以下の利益にも源泉徴収されちゃうのが損だとか何だとかいう議論があるんだけど、そもそも20万円以下の利益確定を毎年チビチビやったり、年単位の損をわざわざ出して利益と相殺したりとかっていうことに頭と時間を使ってほしくない。

税金を払う、つまり売却するのはずっとずっとずっと先。

その時に**利益への税金を取りませんよ、って国が言ってくれてるＮＩＳＡ口座なら非課税**だし、そうじゃない口座の方は**金融機関に最初から税金分を引いてもらってそれで終了！っていう源泉徴収にしとけばシンプル**、以上。

ということで「特定口座・源泉徴収あり」で口座開設しとけば良し。

そしてＮＩＳＡについては、１００万円分買って１５０万円になって売りました、となった時に普通は50万円の利益の約20％の約10万円が税金として引かれちゃうのが、**ＮＩＳＡ口座で買っていればそれがかからない。**

**こう言っちゃ何だけど、ただそれだけなの。**

もちろんありがたい制度だから使うべきなんだけど、でも最後の最後の利益の2割の話でしかないわけ。詳しくはまた商品の選び方と一緒に説明するね。

# 3　預金でもいいけど、僕の20年は参考になるはず（前編）

**投資はマストじゃないけど、誰しも欲はあるからね**

最初に「ズルズルしちゃうくらいなら銀行の積立預金でいいからすぐに本気の天引きを！」という話をしたけど、「**やっぱりどうせやるなら投信でやるべきだろうね**」という話をしようと思う。

それは決して僕が投信業界の人間だからではなく、**僕自身が33歳から投信積立を20年以上やってきたという実体験**からも、もっと長い客観データから紐解いても、それが今後の2人にとって賢明なアドバイスになると強く思うから。つまり、**時間が長ければ長いほど預金ではなく投信でリスクを取った積立をすべき**だと思ってるから。

親子で綺麗なことを言っても仕方ないのでハッキリ言うけど、これって**実は「欲」の話**

なんだよね。**あるいは「夢」の話。**

前に計算したように、手取りの30％とか35％の天引きをきちんと頑張りさえすれば、20年後には立派なお金を手にしているわけじゃない。

あの時の３４８０万円とか３９６０万円というお金がですよ、**もし2倍とか3倍とか4倍の金額になってたら最高だよね！　っていう、「欲」や「夢」の話が投信積立**なのよ。

そう、欲を出して皮算用するって話なの。

つまり、あくまでも毎月30％とか35％の**お金を拠出し続ける努力の方がメイン**であって、**それを運用の力を借りてブーストしてみないか？　っていう話**なわけ。

主従を間違えちゃいけない。

**実は運用って、しょせんは「運」の話**

運が良ければ本当に2倍とか3倍にもなるだろうと思う。

「運」なんて言うと「え～？」と思うかもしれないけど、実際そうなんだよ。

君たちのこれからの投資期間が果たしてどういう経済環境、投資環境になるのかという運に、完全に左右されちゃう。

これはいくら勉強しても事前にはわからないし、どんなに過去好調だったファンドも、どんなにコストが安いファンドも、**その運には逆らえない**。

逆に、運に恵まれた投資期間に積立をやっていたなら、どの資産、つまり米国株とか世界株とか、あるいはＲＥＩＴとかも、すっごく大雑把に言えばまぁ大体同じような方向で、大体同じように「最高な結果」に満足することになると思うし、運に恵まれなかったら大体全部つらいことになる。

ガッカリさせるような言い方で悪いけど、そういうことなの。

商品選択とか知識とかよりも、運に大きく左右される。

ただ、**君たちのように15年とか20年で取り組める人なら、いい時と悪い時とを数回経験しながらも最終的には大笑いする結果を、相当に高い確率で得ているだろうと思う**。

「最高の運」に恵まれるかどうかはわからないけど、少なくとも「預金じゃなく投信でやってよかった〜。あの時お父さんに相談してよかった〜」となるだろうという確信があるからこそ、大事な娘と夫にこういう話をしている。

**父の20年。見せとこ！**

概念はもういいよね。そろそろ具体的なのを見せましょう。

僕の33歳からの24年。はいコレ。

これは僕が33歳、今の会社の前の運用会社に初めての転職をして以降の僕のお金の歴史。

入社直後に初めて投信積立をスタートした、その推移を示してる。**月5万円の積立がどういう推移を経て今に至っているか**を示してるリアルなグラフ。

ちなみに月5万円でスタートしたのはホントなんだけど、後から金額を増やしてます。

全部正直に見せると僕が今いくら持ってるかバレて変な期待をされても嫌なので、ずっと5万円だったということで話をしていくね。

さて、転職した先が日本株ファンドが強い運用会

**期間：2000年1月末〜2023年12月末**
**各月末の日経平均株価に定額積立をしたと仮定したシミュレーション。**
**税金・手数料等は考慮せず。**

社だったので、何も考えずそのファンドで月5万円で始めたのが2000年の1月。

でも、グラフ上にファンドの代替として示した日経平均株価の線でわかるように、スタートのホントの直後から暴落しちゃったのよ。しかも激しく。

2000年1月末に約2万円だった日経平均は、2003年の3月には8000円を割ってしまった。

右肩上がりの三角形は積立元本の積み上がり。

月5万円、年に60万円（5万円×12ヵ月）を24年続けてるので1440万円のところまで直線的に積みあがってるよね。

そして「評価額」の線が、その時々のそれまで積み立てた分の時価評価額の推移。つまり、**もしその時々で積立を全部売ったらいくらになってたのか**を示してる。

**父の20年。最悪のスタートでした**

さて、グラフの見方はわかったと思うので、ここ見て（次ページ）。

2000年1月にスタートしてから日本株はずっと3年間暴落していくんだけど、僕は気にせず毎月5万円の積立を続けていた。

もちろん時価評価（評価額の線）はずっとマイナス状態なんだけど、でも金額としての「実害」はまだそう大きくないから気にしなかった。

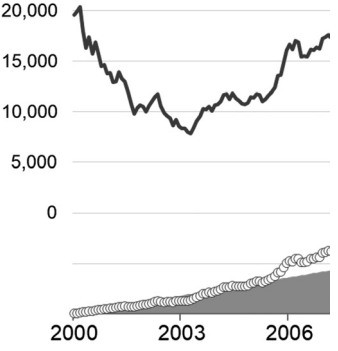
月5万円、1年で60万円、3年で180万円の拠出だから、2割の評価損だったとしても36万円だからね。痛いけど**まあ気にせず続けてた**。

というか初の転職先で毎日忙しくて、気にする余裕なんかなかった。

そしたら2003年の春ごろに「コツン」とばかり日本株は底を付けて上がっていく。評価額の線が積立元本の三角を上回っていることでわかる通り、僕の積立は「**含み益**」の状態になっていった。日経平均は2005年、2006年と順調に回復して1万500円とか1万6000円になっていく。

「**あぁよかった〜**」**という感じだったと思う**。

しかしそれも束の間、恐ろしいことに……。



# 4 預金でもいいけど、僕の20年は参考になるはず（後編）

**父の20年。実は結構シビアでした**

２００３年に日経平均で８０００円を割ったあと、２００５年２００６年と回復していってホッと安心してたんだけど、２００８年からまた急落です。

はい、そう「リーマン・ショック」だね。

評価額の線がまた三角の下に入ってることでわかるように、僕の積立はマイナス、いわゆる「**含み損**」という状態になっていきました。しかもかなり大きな損。

今も覚えているけど、この時は楽観主義の僕もさすがにシンドかったな。見てわかるようにマイナス状態がここから4年半続くの。

約5年よ、5年。この時ってもう10年から13年ずっと積立してる

から、積立元本が６００万円から８００万円とかなんだよね。
そこに最大35％以上のマイナスが襲ってきたわけなので、実額で言えば最大２００万円を超える評価損が定期的に送られてくる明細に記されてた。
その頃は、お母さんにその書類を見せずに捨ててた。
「２人でオープンに！」って言いたくなる原点は、もしかしたらコレかもしれないな。
２人で同額でオープンにやってれば、**こういうシンドい時期も一緒に頑張れる**からさ。

**「意志ある楽観主義」、というか仕事に集中しとこう！**

ここ数年、マネー関係のYouTuberがたくさん出てきたり、一般の人もツイートしたりしているのは、単純に株式市場が好調だったからだと思う。
別に脅したいわけじゃないんだけど、そんなに皆が上機嫌な時期ばかりは続かない。
僕のこの5年みたいなシンドい時期はいつでもあり得ると思って、気にしないで続ける**「意志ある楽観主義」「やめない胆力」**を持っていてほしいんだよね。
含み損の5年って、長いからさ。
そうそう、僕は仕事だからこうして毎日投資のこと考えてマーケット（株式市場など）を

見てるけど、**君たちは絶対そうしないでほしいの。**

YouTubeを見たり、本読んだり、ツイートしたり、ＬＩＮＥのオープンチャットなんか見てたら、逆に悪い時に耐えられなくて余計なことしちゃうと思う。

ネットには「間違ってるなー。堂々と」と思う意見も多いしさ。

逆に、**積立してることすら忘れるくらい仕事に集中している方が、結果的に正解になると思う。**

会社での評価が上がって給料が増えたり、いわゆる「転職力」が高まって、転職で給料がジャンプアップしたりすれば積立額が増やせる。

投資でお金を増やすよりも、前にも言ったように元本を増額する方が遥かに強いわけだから。

それに、仕事で認められた結果「**忙しいけど楽しい**」っていう状態の方が、「運用が楽しい」の比較にならないほど人生にとって価値があるよね。

もう僕には遅いけど、君たちは今そちらに時間と神経を使うべきだと思う。

まだ若いのに「仕事が辛くて早く逃れたいから金を作りたい」っていうのは健全じゃないと思う。

マネー動画を見てる時間なんかゼロにして、仕事に集中し、もっと大事な2人の**楽しい生活に集中してほしいってホント思う**。

説教じみたこと言って悪いけど、親心と思って許して。

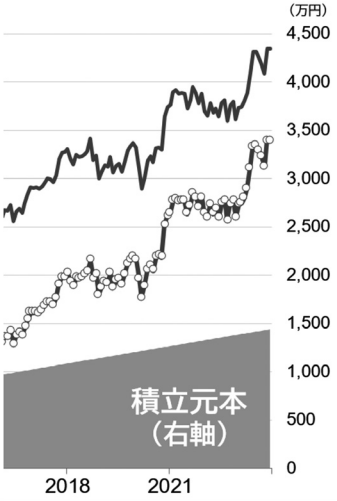
**父の20年。でもやめなくて良かった**

さて、このシンドい時期に積立停止などせず、淡々と続けていて本当に良かったということが、このグラフの後半を見たらわかる。

２００８年のリーマンからの４年半後、２０１３年春ごろから日本株は大きく上昇し始めたんだよね。

「アベノミクス相場」とブームみたいに言われたけど、実際に日本企業が利益をあげるようになり、ソッポ向いてた外国人投資家などがそれに気付きだしたってわけ。

評価額の線を見てほしいんだけど、僕の積立




| 評価額 | 積立元本 | リターン |
|---|---|---|
| 3,399 万円 | 1,440 万円 | 136% |

評価額は急に大きなプラスに転じだした。恐ろしいくらいに。

恐ろしいと言う理由は、このグラフのエンド、2023年12月末時点を見たらわかる。積立元本1440万円に対して3399万円の評価額ですよ。

「リターン136%」って書いてあるけど、つまり2・36倍になっているってこと。

あぁ、**ホントに続けてて良かったよね。**

**不思議すぎるこの結果はなぜに？**

全体のグラフをもう一度見てほしい。

僕が積立をスタートした時の日経平均はちょうど2万円くらいだよね。それが2023年12月では3万3000円くらい。

**期間：2000年1月末〜2023年12月末**
**各月末の日経平均株価に定額積立をしたと仮定したシミュレーション。**
**税金・手数料等は考慮せず。**

確かに約7割は上昇してるけど2倍にまではなってないよね。でもこの期間に積立を続けた僕の資産は積立元本の2・36倍の3399万円になっている。

**スゴくない？　いやホントに**

なぜこんな不思議なことになるのか。

それは簡単に言えば、**2回の下落時に積立をやめてなかったおかげ**。

その時に低い基準価額で「口数」が大きく増えていて、そのたまった口数がアベノミクス以降の上昇時に花開いている、ブーストしている、ってこと。

何でこんな不思議なことが起こっているのか。

投資信託って、毎日1回計算される「基準価額」という1口当たりのファンドの値段を、口数で買うものなの。

細かい話を抜きに単純化すれば、もし10000円の基準価額のファンドを100万円分買いたいという人がいたら、100万円÷10000円で、その人は100口を買うことになる。もし5000円のファンドだったら、100万円÷5000円なので200口買うって感じ。

積立って、**同じファンドを毎月同じ日に同じ金額で買い続ける仕組み**なんだよね。

ということは、先月よりも値段が下がったファンドを今月5万円分買うと、先月よりも多くの口数を取得することになるよね。

基準価額が下がってても同じ金額分買うんだから、ゲットできる口数は先月より多くなる。さらに来月も下がっているとすれば、来月の5万円ではもっと多くの口数を買うことになる。しかも安い値段で。――そう、これが理由。

僕は20年間で大きな暴落を2回経験したわけだけど、その時に僕はメチャメチャ口数を増やしていた。つまり、低い値段のモノを大量に仕込んでいた。

そして最後になって上がったもんだから、たまってた口数がブーストして、ターボがかかって急に増え方が増したわけ。

「下がってもやめなかった」ことが花開いた結果、日経平均は3万3000円までと約7割しか上がってないのに、僕は**資産を2・36倍に増やすことができてるわけだ。**

# 5　預金でもいいけど、僕の20年は参考になるはず（完結編）

**すべては結果論だけど**

さっきまでの話についてどう感じただろう。

自分で話してて思うけど、**でもこれってすべて結果論**なんだよね。

もし日経平均が今も1万円あたりをウロウロしてるような日本株市場だったら、僕の積立元本１４４０万円はまだマイナスなんだろう。

前に「結局は運なのよ」みたいなこと言ったけど、あの時よりもその意味は伝わってるよね、きっと。

どれだけ過去のことを学んでも、どれだけ慎重にファンド選びをしても、これからの君たちの20年は僕のとは絶対同じにはならないし、予想もつかない。

でも僕の20年から学べることはあると思う。

投信積立が報われるための秘訣は、

**①株式市場にはとにかく〝ボーっと〟居続けること**
**②「下がった時が嬉しいんだ！」という〝やせ我慢〟**

という2つ。

仕事に集中して放っとけ、って話したけど、本当にそうしてほしい。

積立の初期設定であるファンド選びや、ボーナス時のアクションについては深く考えて決めてほしいんだけど、それが終わった後は本当に忘れたかのような過ごし方をしてほしい。

そのボーっとしたフリで放っておく「**意志ある楽観主義**」を貫くために持っておきたい理解が、僕の2度の暴落時の話だね。

つまり、投信積立において「**下がっていることは実はいいことなんだ**」、「**最後に笑うために必要な、口数の溜め込みを今やってるんだ**」っていう理解。

## 経済は右肩上がり

ところで、僕の20年どころじゃない長い世界経済の歩みを見て思うのは、**経済はずっと成長してきた**という事実。

投信を使った資産形成って、この経済成長の力を賢く活かす試みだと思うんだけど、その前提として求められるのが「**経済は右肩上がりだったし、今後もそうに違いない**」という信念だと思う。

一人ひとりの投資がどうなるかは結果論でしかないわけだけど、経済自体は、そしてそれを反映する株式市場は、色んな「ショック」を結局は克服して、さらなる成長をしてきたよね。

それはなぜなんだろう。

**僕らの欲には際限がないから**だと思う。

昨日より貧しくなってもいいんだって人ばかりだと経済は成長しないだろうし、世界中が社会主義経済を唱え始めて、個々人がより良い暮らしを自分でつくりたいと努力しなく

なったら、世界経済は成長しないと思う。

でも欲深い僕らはもっといいモノやサービスが欲しいし、それをビジネスチャンスととらえて企業は毎年新製品を出す。その背景には日進月歩の技術進化があって、欲しくなるモノはきっとこれからも、どんどん出てくる。

君たちの会社の社長だって、「今年の我が社の目標は現状維持です。頑張らなくていいです」なんて言わないよね。

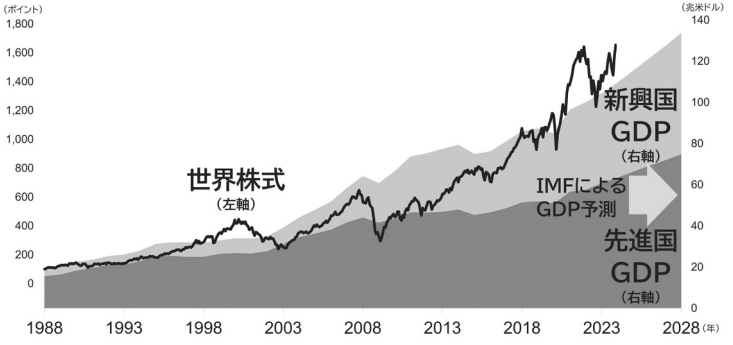
企業は毎年売り上げや利益を増やしていこうとするし、僕らは去年よりも給料が上がってほしいと頑張る。

**こういうことの集まりが経済だから、やっぱり全体としては右肩上がりで、だから株式市場も右肩上がり**なんだよね。

ウチの会社が10年以上前から使っているグラフがある。これ。

面グラフが世界のGDP、まぁ経済規模の総額で、線が全世界株式指数という世界全部の株式市場を指数化したもの。

これを重ねてみたわけ。もう明らかでしょ。




**世界のGDPの推移・予測と世界株式の推移**
IMFおよび信頼できると判断したデータをもとに作成。世界株価指数はMSCI ACワールド指数（配当込、米ドルベース）。1987年12月末〜2023年12月末。

つまり経済規模はずーっと右肩上がりで増えているし、株価はそれとリンクして同じように動いてきた。

**これ以上シンプルな関係性はない**よね。

もちろん、僕の積立が苦境に陥ったスタート直後の２０００年頃やリーマンの２００８年頃は面グラフ自体が落ち込んでいるのがわかる。そして株価も落ち込んでいるよね。

でも世界経済は苦境を克服して前進し、株価もそれに先行するようにして上昇していった。

実際、これまで「常に」って言っていいくらいに、世界経済は色んな試練を受けてきたよね。誰も予想しなかったようなことが常に起こっている。起こりそうな火種も、そこここにたくさんある。

そういう試練が表面化すると、経済活動がスローダウンすることもあるだろうね。株価は何より真っ先に反応して下がるわ。間違いなく。

でもこれまでがそうだったように、政治も企業も最大限の努力と工夫をして、その試練を乗り越えるんだと思うよ。そして経済はまた、「右肩上がり」に回帰していく。

この面グラフは今後の経済成長の予想値まで入ってて、今後も経済は右肩上がりだと予

想されている。先進国はもちろん、中国やインドなどの新興国がより成長すると予想されている。

株価の線の方はもちろん直近までしか描かれてないけど、経済がそうして成長していくと予想されるなら株価だって一緒に右肩上がりだと考えるのは、そう間違っていないと思う。

短期的には色んなニュースでアップダウンはあっても、ボーっと放っておけばいいじゃんって僕が思えてきたのには、こういう理解が腹の中にあったから。

そしてもうひとつは、しつこいけど「**下がっても嬉しい**」**という積立の仕組みへの理解**。

でも一番大きかったのは、僕が本当に楽観主義者で、細かいようでいて面倒なことは嫌いないかげんな性格だったからかもしれない。

積立の損益を毎日チェックしたり、下がった時に気に病んで余計なアクションをしなかったのは、**単に僕のズボラな性格のおかげかもしれない**。

今さら僕の性格なんか言わなくても、十分わかってるか。

# 6 告白：僕の積立20年で実は後悔していること

**日本株ファンドでなければ……**

２０００年の当時、そもそも投信積立はメジャーじゃなかった。

もちろんＮＩＳＡもないし、投信ブロガーもYouTuberもいなかった。

それでも今で言うところの「コツコツのほったらかし」を、しかも「本気の積立」で始めた自分を褒めたい。

波乱の24年、一度も積立停止などせず、ボーナスのお金も前向きに果敢に使って続けてきた自分を褒めてあげたい。

でも後悔していることが１つある。

それは**日本株ファンドで始めてしまったこと**。

始めた時の日経平均は２万円で、その後８０００円割れを２回見て、13年後からようや

く上がっていった日本株だけど、結果的に投信積立の効果が出やすい展開を辿った日本株だったけど、それでも24年前のあの時、もし米国株や世界株に投資するファンドで積立をセットしていたら、僕の資産は今よりもっともっと増えているわけだよね。

——と後悔するわけ。

でも当時、米国株のファンドなんてまったく不人気だったし、よくわからない外国の株に投資するファンドがまったくピンと来てなかったんだと思う。

この業界にいたくせにね。

まぁでも、そういうセコイことは考えないようにしてる。

だって、もしリスクを取ること自体を躊躇して預金で積み立てていたら、今の僕は半分のお金しか持っていないわけなんだから。**あの時リスクを取って、24年続けたことは十分に報われているんだから**、と。

**リターンを決めたのは「インデックスかアクティブか」などではない**

ただ君たちに伝えたい教訓は、24年前に僕が日本株のファンドを選んだ瞬間に、**リターンのほとんどは決まっていた**——ということ。

商品選びについてはあとで具体的に話すけど、いわゆる「インデックスファンド」だろうが「アクティブファンド」だろうが、信託報酬というコストが高かろうが安かろうが、「何とかファンド賞」を取っていようがいまいが、まぁ乱暴な言い方で悪いけど、日本株に投資するファンドを選んだ瞬間に、僕のこの24年のリターンのほとんどは規定されてしまっていた、というのが事実なんだよね。つまり、**商品選びは大事だけど、順番は最後。**

考え方の順番について話してみようか。

まず最初は、前に話した通り「**金額決め**」だ。

「本気の積立」と言えるような金額の拠出をするかどうか。

2番目は「**資産選び**」。

簡単に言えば、株式100％の投信でやるかどうか。難しく言うと資産選択、資産配分、アセットアロケーション。

投信には「中身は株だけ。常に100％株に投資してます！」っていう株式ファンドから、株と債券を半々などに保つことで「安定と成長の両方を追求します！」みたいなバランスファンドや、「怖い株なんて一切持ちません！」っていう債券ファンドもある。

その中でどこに腹を決めるか、が2番目。

3番目がその中での「**投資方針決め**」。

株100%でいくとして、その対象は米国か日本か世界か、はたまた地域で縛るのではなく業種や何らかの投資コンセプトで絞るか――。

手法より手前の投資そのものの考え方の部分。あとでもっと具体的に説明するね。言いたいことたくさんあるし。

4番目がその中での「**投資スタイル決め**」。

これがさっき言ったインデックスファンドかアクティブファンドかなど、商品の中の運用手法の話。

これもあとで話すけど、既に世の中にある株価指数――日経平均とかTOPIX（東証株価指数）などに上にも下にも連動するように作られたのが「インデックスファンド」で、良さげな銘柄を選んでパッケージにするのが「アクティブファンド」。

意思を持って積極的（アクティブ）に銘柄を選びます、ってことだね。今はとりあえずそう覚えといて。

そして最後が、そうした絞り込みプロセスを経た上での「**ファンド選び**」。

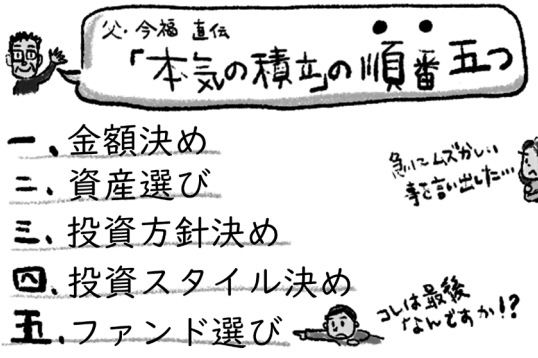
4番目までの思考の中で絞り込まれたカテゴリーの中から、運用会社の信頼度や実績やコストといった商品スペックを見て最終的なファンドを決める、と。

何か急に本格的な話をしてしまったね。「急に何だよ～」と思ったかもしれないが、今は何となくでいいから、「商品選びを急いではいけないんだな」ということだけ感じてくれたら十分。

今は僕の24年前とは真逆に、商品も情報も溢れまくってるよね。

SNSでは「S&P500（米国株式インデックス）とオルカン（オール・カントリー＝全世界株式インデックス）のどっちがいいですか？」とか「クレジットカードでの積立のポイントが下がったのでどうしたら？」なんて質問が、ネット上の匿名で顔も知らない人に対してされていて盛り上がってる。

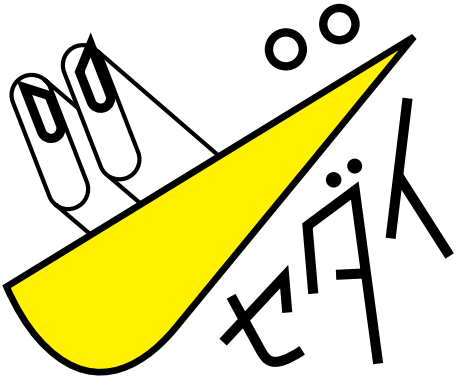
もちろん既に目覚めた賢い人たちだから、その答えを鵜呑みにしようなんてことではなく、多くのセカンドオピニオンを集



めに行ってるんだと思う。

それでも僕からすれば、**その多くはさっきの4番目か5番目の技術論の議論**でしかないと思える。

さっき言ったように、インデックスでもアクティブでも、Aファンドでも Bファンドでも、コストが高くても安くても、最初に「日本株で」とか「米国株で」などと決めた瞬間に、**リターンはその大きな枠組みにおける今後の「運」に規定される**んだからね。




# 何と闘うか？

https://ji-sedai.jp

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

**ジセダイイベント**　著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！　行動機会提案サイトの真骨頂です！

**ジセダイ総研**　若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

**星海社新書試し読み**　既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

# 行動せよ!!!